

# 前立腺がんの早期診断 と治療

泌尿器科

## 前立腺がんとは

前立腺は 男性の 骨盤の底で 膀胱の下にある臓器です。中央を尿道が通っています。

日本で 前立腺がんは 増加傾向にあります。現在も 男性のがんの中で 胃がん、肺がん、結腸がん、肝臓がん、直腸がんに次いで 6番目に多いがんですが、2020年には 肺がんに次いで 2番目になるとの予測があります。

年齢は 主に 45才以降 発生し 加齢とともに増加します。

症状は 排尿困難、頻尿、血尿などが みられることがあります。

## 前立腺がんを見つけるには

今後 増加が予想されている前立腺がんですが 症状が出る前の 早期に発見することが可能です。早期発見には 血液検査 (PSA 検査)、直腸診 (直腸からの前立腺の触診) が有用です。PSA 検査は 感度が高く 採血のみで がんの可能性が高いか低いかが 判定できますので 年齢が 50 才以上の方は まず 血液検査を受けてみることを おすすめいたします。

PSA 検査が 高値であったり、検診の 直腸診で 前立腺に硬いところがあり 前立腺がんが疑われる場合には 泌尿器科の専門医による 診察、検査をおすすめいたします。

診断のためには 前立腺の一部を 針で採取して 顕微鏡で調べる 前立腺生検が 必要です。

当院では 診察、尿検査、超音波検査、レントゲン (MRI検査) などで 前立腺肥大症、前立腺炎 などの 良性疾患を ふるいわけた上で 必要な方には 前立腺生検をおすすめしています。

針で 組織を採取する検査であり 痛みを伴いますので 検査時の 痛みを和らげるため 下半身の

麻酔をして 検査を行っています。検査、麻酔に伴う 合併症がみられることもありますので 4日間 入院していただいています。

## 前立腺がんの治療は

前立腺癌の治療法には 外科的手術、放射線療法、薬(内分泌療法) があります。それぞれ 治療効果、入院の有無、入院期間、通院の頻度、合併症などに差があり 長所、短所があります。

早期がんであれば 治療の選択肢が多いので 患者さんにあった 治療効果がよく 日常生活に支障の少ない 治療法が選べます。

当院で行っている治療法は 外科的手術としては 下腹部を切開しての 前立腺全摘術、放射線療法としては リニアックでの体外照射、内分泌療法としては 注射薬、内服薬、精巣摘除術 などです。

## 外科的手術

前立腺全摘術 は 入院して 切開手術になります が 完治の可能性が高い方法です。入院期間は 3 週間くらい。手術後の合併症で 尿失禁がおきることがあります。

## 放射線治療

リニアックによる体外照射での 放射線療法は 外来通院でも治療が可能な方法です。平日に 続けて 30数回の通院が必要です。まれに 膀胱、直腸の症状(頻尿、排尿痛、血尿、便意頻回、下痢、下血)、下腹部の火傷 がおきることがあります。

## 内分泌治療

内分泌療法は 数週間おきの外来通院で 内服薬、注射薬で治療が可能です。病状を選んで 治療を行った場合は 手術と遜色ない治療成績である、といわれています。まれに 重傷な肝臓、心臓、血管の合併症が起きることがあります。

外科的手術で 腹腔鏡での手術、ロボット手術 放射線療法で IMRT、重粒子線治療、陽子線治療、密封小線源療法 を希望される方には 近隣の施設を ご紹介しています。